

【秘書広報課長補佐】 お待たせをいたしました。

定刻の時間となりましたので、ただいまより平成28年1月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願い致します。

【市長】 改めて、皆さん、新年明けましておめでとうございます。

今年は珍しく雪のないお正月になりました。年末年始と過ごしやすいい日々を過ごさせていただきました。今年もこういう暖冬が続いて1年が晴れやかないい年でありたいなというふうに願っております。

また、今年は、北陸新幹線あと6年というふうになりましたので、それに対する敦賀市の受け皿づくりということをしていかななくてはなりませんし、平成30年の福井国体もあと2年後に迫りました。そういう意味でもいろんなことをやっていかななくてはいけない年になってきたなというふうに思っております。

また、原子力関係では、1号機の廃炉も決まりましたし、今、もんじゅが勧告を受けております。そういう意味では財政面でもいろんなことの取り組みをしていながら敦賀市の活性化、また行財政のスリム化をしていかなければならない年だというふうに思っておりますので、全力で頑張っていきますので、ぜひとも皆さんのご協力を得たいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をよろしくお願い致します。

【市長】 本日の事業発表等につきましては2件ございまして、平成28年度敦賀消防団出初式の実施について、もう一つが文化財火災防ぎょ訓練の実施についての2つでございます。

平成28年度敦賀消防団出初式の実施につきましては、お手元にも資料を配ってあると思いますが、平成28年1月11日月曜日午前10時から12時まで行います。一斉放水をやりまして、分列行進、つるが鳶はしご乗り演技、観覧式、管理者訓示、祝辞等。参加人員、車両その他になりますけれども、今年は場所が変わりまして、分列行進等は蓬萊のきらめきみなと館前市道ということになっております。どうぞよろしくお願い致します。

2点目ですけれども、文化財火災防ぎょ訓練の実施についてでございますけれども、第62回文化財防火デーを迎えるに当たり、先祖から継承されている貴重な財産を火災から守り長く後世に伝えていくため、文化財保護施設における火災防ぎょ訓練を実施し、消防職団員の火災防衛活動技術等の向上と文化財保有関係者の初期行動能力を高め、あわせて市民の文化財に対する関心と防衛意識の高揚を図ることを目的として、1月24日日曜日午前9時から10時まで行います。場所は相生町にありますみなとつるが山車会館と敦賀市立博物館で行います。どうぞよろしくお願い致します。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表いたしました項目について質問を受けたいと思致します。

最初に、幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 今年もよろしくお願い致します。

質問は特にありません。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、幹事社さん、お願いします。

【記者】 今年もよろしくお願い致します。

質問は、出初式の、何か参加人数とかってわかりますか。体制、全体の。

【消防本部次長】 お手元の資料に、参加人員224名、消防団員172名、消防職員52名というふうに明示してあります。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。発表項目につきまして質問ありましたら挙手をお願いいたしたいと思います。

【記者】 文化財の火災防ぎょ訓練で、「所有文化財（別添資料参照）」の別添というのはどれをおっしゃるのでしょうか。

【消防本部次長】 この件につきましては、資料的にこの件数を書きましたけれども、かなり用紙要りますので、これは省略してつけてありません。

【市長】 また必要であれば、後でお問い合わせくださればお示ししますので、よろしく願います。

【記者】 今年もよろしく願います。

出初式なんですけれども、分列行進の会場が変更になったのは何か理由があるのでしょうか。

【市長】 つるが鳶をやりますのに、きらめきみなと館でやるんですけれども、そこまでの移動時間とかありまして、団員さんたちもそうなんですけれども、観客の人たちがまた移動したり車で動いたりするのは大変だということがありますので、一度きらめきみなと館のほうでやってみて、そこでやって移動距離を短くしてみようということ今年初めてやるというふうに伺っています。

【記者】 今年もよろしく願います。

出初めと文化財火災防ぎょ訓練のどちらもなんですが、何か今年初めてやることってあるのかどうかという確認だけです。

【消防本部次長】 これについては毎年恒例なので変わったことはありません。ただ、先ほど市長言われたように、会場を変えて、きらめきみなと館の観客がそこへ来て分列行進も近くで見られるということで変えたのが一番今回の変更点でございます。

【市長】 あえて言うならば、市立博物館がリニューアルオープンして初めてということでしょうね。

【記者】 今年もよろしく願います。

続けて、今の出初式の関連で、鳶の全員によるはしご乗り訓練等のご案内もいただいているんですが、現在の参加、この鳶に限っていうと何人体制で参加されておやりになられるのか教えていただけますでしょうか。

【消防本部次長】 現在、3隊で約50名が訓練に参加しておりまして、今年1月6日と9日で全体訓練をするという予定になっております。それで11日が本番でございます。

【記者】 約50人というのは、3隊合わせて合計50人。

【消防本部次長】 はい、そのとおりです。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思えます。こちらも幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 原子力全般のことでちょっとお伺いしたいんですけれども、今年は、先ほど市長の挨拶の中にも少し触れられましたけれども、敦賀1号は廃止措置計画を出して具体的な廃炉が始まっていきますし、2号についても新規制基準に基づく安全審査というのが恐らく始まっていくと、もんじゅは夏ごろにももしかしたら運営主体が変更される可能性もあるというようなことで、いろいろこの敦賀に関する原発の状況も変わってくるかと思うんですけれども、この敦賀市にとって原発の状況が変わるということの市長ご自身のお考えをちょっとお伺いしたいんですけれども。展望であるとか、あと敦賀市に与える影響であるとか、あと市長の、何か希望などあれば教えていただければと思うんですけれども。

【市長】 原電の1号機につきましては、もう廃炉にするということが決まっていますので、その申請がいつ出るかということでスケジュールが決まっていくのかなというふうに思っております。そのスケジュールについてはまだ今のところわからないんですけれども、今年はっきりするだろうなということは思っております。

2号機につきましては、今、申請出したところですので、2号機についての行方というのは今から審査をしながらということになるかと思えますので、それは見守っていくしかないというふうに思っています。

もんじゅにつきましては、勧告、今おっしゃったようにおおむね半年ということですので、その中でどういう判断がされていくのかということなんですけれども、やはり国のエネルギー政策の中で、どれもそうですけれども、やっていることですから、国が前面になってどういうふうに持っていきたいということを意見として出して主導でやっていただきたいなというふうに思っております。

【記者】 敦賀市にとって、例えば経済ですけれども、どのような影響があると考えられますか。

【市長】 今はっきりしているのは、1号機の固定資産税が減って4億から5億という話ははっきりしておりますけれども、ほかの分についてはまだ検討中の部分ですので、今は何とも言いえないところかと思えます。

部長のほうで何かつけ足すことがあったら言ってくれると思います。

【総務部長】 経済、財政上の問題ということですね。

一応28年度の当初予算の中では、1号機廃炉ということによりましての減収という中で、三法交付金等で4億、市税のほうで約3億の7億ほどは減収になるという見込みで今考えているところでございます。

【記者】 あともう1点なんですけれども、年末なんですけど、もんじゅでナトリウム漏れの警報機が鳴りまして、恐らく誤報だとは思いますが、最後までやっぱり何かもんじゅだなというような感じになったんですけれども、そのことについてはどのように思われますか。

【市長】 個人的な正直な感想だと、このタイミングでかという気持ちが、思いましたけれども、きちんと報告されて対応しているというところは確認できたのかなという。そういう意味では、こういう状態でもきちんと運営しようとする気持ちは伝わってきたというふうに思っております。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、同じく幹事社様、お願いします。

【記者】 今の原子力政策全般のことで改めてなんですけれども、やはり今、大きな岐路に立たされると思うんですが、今年度というのは、改めて市長のお気持ちとして、例えば危機感を感じていらっしゃるのか、所感を改めてお聞かせいただけますか。

【市長】 国としてのエネルギー政策としての原子力、どういうふうに持っていくかというのは、国が前面に立って安全、安心を確認しながら進めていただきたいというふうに思っておりますし、進めていくというメッセージもいただいておりますので、それを見守っていききたいというふうに思っています。

もう一つは、敦賀の1号機もそうですけれども、やはり原子力発電所が高経年化してきて廃炉を目指す、廃炉を迎える時期というふうに、そういう時代が来たんだなということを思いますので、廃炉についてもパイオニア的な立場ということを敦賀市は経験していかなくちゃいけない、積極的にそれに取り組んでいかなくちゃいけない立場にいるんだなということを感じています。

【記者】 やはりこれまでとそのかじ取りが変わってくるのかなと思うんですが、その辺は何か感じていらっしゃいますか。

【市長】 当然、今まででしたらいろんな新しいものをつくるということに対する前向きなことがたくさんあったんですけれども、今、廃炉ということで、言葉のイメージ的には何か後ろ向きみたいな気持ちになってしまう言葉がありますけれども、実際には新しい技術をつくっていくところが今から始まる場所なので、そういう意味では新しい産業が起きるということをもって前向きに取り組んでいかなくちゃいけないなというふうに思っております。

もう一つは、東日本大震災があって原子力を進めていいのか悪いのかという時代があったんですけれども、だんだん落ちついてきて、福島でも安全が確認された原子炉については福島の知見を入れながらやるんだったらいいんじゃないかというようなご意見も、言われる方も出てきましたので、そういう意味では、原子力の推進ということに関しては福島の復興と安全が確認できた発電所の再稼働という2つのことを見据えながらやっていける時代になったんじゃないかなと。それにプラス、廃炉の技術の確立ということになるんじゃないかなと思っています。

【記者】 あともう1点、市長はご当選の後、ご自身のやりたいことを反映するのは今年度の当初予算からというのを常々おっしゃっていらっしゃいましたが、改めて、予算に関してどこか重点的に取り組んでいきたいこととか、今の時点で考えていらっしゃることを教えてください。

【市長】 本当に予算がたくさんあって幾らでも何でもできるんだったらという気持ちが先立ち

ますけれども、行政のスリム化、またその人員の配置の検討をしながら財源と人を生み出していて、その中でその貴重な財源と人を新しい取り組みに向けていきたいなと思っています。その新しい取り組みといいますのが、やはり北陸新幹線が来るまでの敦賀のオンリーワンをつくっていくという作業になりますし、また港の2期工事が今始まっていますので、岸壁工事まで入って、赤レンガ、それからムゼウム含めた港の活性化、新しい産業をつくっていくということを取り組んでいかななくちゃいけないというふうに思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社、質問がありましたら挙手をお願いしたいと思います。

【記者】 まず、原子力行政でちょっとお尋ねしたいんですけども、去年の年末に高浜3・4号機の再稼働について、知事が地元同意、最終判断されましたけれども、ただ、やっぱり課題は、実際にその30キロ圏内について、京都府のほうが人口多いにもかかわらず、広域避難、実際の住民の避難の訓練をできないまま再稼働に移るとというのが課題として残っているのと、知事がずっと国民理解が足りないということで首相が一定のメッセージは出されましたけれども、そんなに大きな環境変化ってないと思うんですが、理解がまだそんなに進んでないという実態があると思うんですけども、あのタイミングでの県知事の地元同意についてどういうふうに見ておられますか。

【市長】 私がその判断する立場にないわけなんですけれども、妥当な時期に判断されたんだろうなというふうに思っております。

【記者】 妥当な時期というのは、どういう意味で妥当なんでしょうかね。

【市長】 いろんな要件がありましたけれども、その要件をクリアして最終的に判断されたんだと思っています。

【記者】 ということは、別に訓練とかはそれほど重要ではないというふうにご認識ですか。

【市長】 私の認識ですか。避難訓練は当然するべき部分があると思いますけれども、30キロまでしようと思うとすごく大変だと思うんですよね。ですから、そこまでしなくちゃいけないというふうに求めるところまでは必要ないのかなというふうに思っています。

【記者】 あとは、これは多分、総務部長かと思うんですけども、確認なんですけれども、先ほど三法交付金の関連で7億円、平成28年度当初予算は減収ということだったんですけども、要は電気事業法上の廃炉が去年の4月、平成27年度だったから平成27年度は満額入ったけれども、それが丸々28年度からなくなると、そういう意味でよろしいですか。

【総務部長】 はい、そのとおりでございます。ただ、先ほども言いましたのは、7億の内訳として三法交付金は4億です。あと市税、固定資産税等も含めた市税が3億弱ほどあるということでの大体7億を減収になるだろうと見ておるということでご理解をいただきたいと思います。

【記者】 そしたら確認なんですけれども、固定資産税については、廃炉に当たって一定程度必要な設備というのは固定資産として認められるはずなんですけれども、ゼロにはならないという予算計上になるんですかね。微々たる額だけでも一定程度、固定資産税、1号機についても残るとのことなんですか、それとも完全にゼロになる。

【総務部長】 固定資産税の賦課期日は1月1日現在でございます。それは既に28年度についてはもう通過しているわけでございまして、その時点で建物があるかないかという形が賦課の要件になりますよね。その中で固定資産の家屋についてはあるわけですから、それについては減少ということじゃなく通常になると思いますし、ただ、償却資産という面の中では減少するんじゃないかというふうに考えております。

【記者】 同じく敦賀1号機の廃炉に関してで、去年の3月、たしか17日だったと思うんですけども、廃炉決定で電気事業法上の廃止が4月27日でしたけれども、まだ8カ月余りたって廃止措置計画が出てないので、これはちょっと遅いんじゃないかと思うんですけども、市長としてはどうのご認識でしょうか。

それと、たしか2号機については6つの中間貯蔵に持っていく予定だったかと記憶しているんですけども、1号機については六ヶ所村に運ぶという予定で、その六ヶ所の再処理工場がまたもや稼働延期になっていますけれども、市としてその使用済み燃料の取り扱いについて何か望むことってありますか。例えばその乾式貯蔵で危険度を低めてほしいとか、もしくはこのままの状態でもいいじゃないか、それともそれ以外の、例えば知事が言っているような県外に中間貯蔵施設

を早くつくってほしいとか、その辺のちょっとお考えをお聞かせ願えますか。

【市長】 1号機の廃炉措置についてということですが、できるだけ早く申請して廃炉措置を着実に進めていただきたいとは考えておりますけれども、拙速に検討していかげんな計画が策定されたら困りますので、事業者として十分に検討した上で申請していただきたいというふうに思っています。

あと、使用済み燃料についてですけれども、使用済み燃料については、やはり外に持ち出してしかるところに、中間貯蔵みたいところに置いていただきたいというふうに思っております。

【記者】 外というのは、市外という意味、県外という意味、それとも敷地外なら特に問わないという意味なんでしょうか。

【市長】 知事が、私が県内とか言ったら大変なことになるので、県外ですね。県外です。

【記者】 わかりました。

あと最後、もんじゅについてお尋ねしたいんですけれども、非常にちょっと気になってるのは、国の大臣の、閣僚会見とかも含めて、こちらに審議官とかが来られたときも含めてどなたも、絶対に廃炉にすることは100%ないということは誰ひとり言わないんですよ。やっぱり引受先が見つからなかつたら廃炉の可能性もあるんじゃないかというふうに思わざるを得ないんですけれども、今後、検討会が、地元からもヒアリングするという方向性示していますけれども、市として何か、特にこういうことを訴えたいということがあればお教えいただけますか。

【市長】もんじゅについては、勧告の内容を見たときにやっぱり一番最初に感じたのは、やはり安全、安心に運営してほしいということが一番ですので、その部分をやっぱり一番最初に言わなくちゃいけないと思っています。

もう一つは、エネルギーサイクルの中の研究開発施設ですので、そのエネルギーサイクルというのをどういうふうに捉えるのかということの見直しになってくるんですね、もんじゅを廃止するということは。その国策の見直しになってきますから、そういうことまで踏み込んでやっていくのかどうかというのは今後見守りたいというふうに思っています。

【記者】市としては、存続を強く望むというようなことは訴えるおつもりというのはあるんでしょうか、ないんでしょうか。

【市長】存続させるかどうかというのは国の判断だと思います。ですから、国がエネルギー政策の中で進めていきたいということに対して地元は協力しているという立場でございます。ですから、地元が何とかこれを残してくださいということは本来の話から外れると思います。ですから、国が進めていきたいですと、続けていきたいんです、これは必要なことですよということの中で地元は協力するという立場だと思います。

【記者】それと、もう1点だけなんですけれども、今まで、市長が当選される前でしたけれども、人口減少に対する計画、市が示していたと思うんですけれども、あそこに入っていたのは敦賀1号機の廃炉だけで、敦賀2号機ってご存じのように、申請はされたけれども、それが認められるかどうかというのはちょっと微妙な情勢だと思いますし、もんじゅについても本当に宙ぶらりんの状態になっているんですけれども、そういった下手したら原発がゼロになることもあり得るんじゃないかという、そういう前提でやっぱり計画というのをつくり直すようなことって必要じゃないかなと個人的には思うんですけれども、いかがお考えでしょうか。

【市長】そこはまだ決まってないので何とも言えないんですけれども、検討の中には含めていきたいと思っておりますけれども、どの程度含めるかというのは全然まだ未定です。

【記者】今ほどもお話したもんじゅの受け皿探しの件なんですけれども、年末に文科省の検討会が滑り込みって感じで仕事納め式のときに開かれましたけれども、あれもし内容報告を受けてらっしゃるようならどんなふうに議論、まだそんなに深まってははいないんですけれども、どんなふうに受けとめられているか伺えますでしょうか。

【市長】議論が始まったなというふうに受けとめてる程度ですね。まだそんなに中身に入っていないんじゃないかなと思っていますけれども。

【記者】馳大臣の間来られたときに、敦賀市市長からもヒアリングをというようなお話だったかと思うんですが、先ほどもちょっと質問出ていましたが、そのヒアリングでこういうことを訴えていきたいというようなこと、今お考えありましたら伺えますか。

【市長】ヒアリングについては、実際に呼ばれるかどうかということも含めてですけれども、

どんなことを聞かれるかというのはまだ決まってないんですね。ですから私がどのような話をするかというのもまだちょっと今の時点では何ともわからない。

【記者】 いつごろっていう時期は、何か先方からお話あるんでしょうか。

【市長】 いや、まだ何にもないです。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 敦賀港線、JR貨物が今持っている、のことでちょっとお尋ねなんですけれども、12月の議会でもちょっとその話題が上がったと思うんですが、その際に市長、県とも協議しながら何か活用できないかというような、そういうようなニュアンスのご答弁があったかと思うんですけれども、その後、県との間で、あそこをどう活用するかとかどうするかとかいうような、そういうようなお話の進展というのはあるんでしょうか。

【市長】 今のところまだありません。もう少ししたらやります。まだないです。

【記者】 あれ割と近い時期に何らかの結論を出さなきゃいけないものではなかったんですって。

【市長】 日程調整がうまくいっておりませんで、年末ちょっとばたばたしましたのでまだ打ち合わせできてないんです。できるだけ早くやります。

【記者】 あれ少なくともこの年度内、3月までには何か一定の方向性みたいなのが見えてくるようなものですか。

【市長】 そのつもりでおります。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 今年もよろしくお願ひします。

ふるさと納税に関してなんですが、昨年、敦賀市も返戻を市長の肝いりで始められたんですが、昨年1年間、どれくらいあったかというのはもうまとまっていますか。

【政策推進課長】 今、資料ちょっと手元にないもので、また後ほどお知らせいたします。

【記者】 大分ふえたんですかね。

【市長】 はい。三千二百五十何万です。

【記者】 それってどれくらいふえているんですか。10倍ぐらいですか。

【市長】 3,200万ぐらいふえています。

【記者】 すごい。ゼロからふえたってぐらいですか。

【市長】 いや、50万ぐらいから。

【記者】 なるほど。

【企画政策部長】 2件非常に大きな、大口の寄附者の方がいらっしゃいますので。その関係でふえておりますので。

【記者】 昨年ということですね。

【企画政策部長】 ええ。昨年ですね。

【記者】 それで市長にお伺いいたしたいんですが、先ほど市長のお話の中でも、もう原発廃炉になって財政的にも厳しくなるというお話でしたが、小浜市さんとかはふるさと納税目指せ1億円とか掲げて実際突破されたようなんですが、敦賀市ももっと返礼を充実させて、それで税金がいっぱい来るようにするという政策は考えられますか？

【市長】 返礼品をあんまり高額にするというのは今よろしくないという風潮がありますので、高額にはせずに、もうちょっとメニューをふやしてふるさと納税を拡充したいと思っています。また、納税しやすい体制をつくらないと、なかなか納税しにくい体制、窓口とかあると思いますので、その辺も充実したいと思っています。ですから、去年幸いお金がたくさんしてくれた人がいますので、そのお金をそういうシステム開発の中で充てられたらいいなというふうに思っています。

あと、物じゃなくて、やっぱりふるさと納税というのは思いだと思しますので、例えばムゼウムを応援したいとか中池見を応援したいとか、そういう思いを窓口にできるんじゃないかなということもやっていきたいなと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 マイナンバーの発送状況ってどうでしょうか。

【市民生活部長】 昨年の12月28日現在ですが、県内で一番遅く郵便局のほうに持ち込まれてい

ますので、配達開始が昨年の11月21日から始まっています。それで12月28日現在ですが、返戻が2,237、累計でございました。2,237。そのうち、当然窓口とか再送付をいたしまして、その件数が695です。今、28日の時点で1,542残っております。順次窓口とか取りにきておられますので、きょうも窓口混雑しておりますけれども、順次少なくなっていくというような状況でございます。以上でございます。

【記者】 再送付は695ですか。

【市民生活部長】 695です。12月28日現在ですね。

【記者】 ムゼウムの関係で、杉原氏関連の資料がふえつつある中で、議会でもちょっと施設が手狭じゃないかという話がちょっと出ていましたけれども、それについての対策について市長の考えを聞きたいんですけれども。

【市長】 何か建てたいんですけれども、今お金がないのでできないなって今もがいています。

【記者】 それは思いとしては、その施設を充実させるために、例えば建てかえたりほかに移したりとか、その中で展示がえをしていくとか、何かいろいろあると思うんですけれども、市長としてはどういう方向に持っていきたいとかっていう考えはないんでしょうか。

【市長】 展示スペースがすごく狭いので、本当に何とか広いスペースに持っていく上で手段は選ばないんですけれども、今方策が立たない状況なのでちょっと一ひねりしたいなと思っています。まだ言えないです。

【記者】 そのムゼウムを含めた人道の港敦賀としての魅力発信というのはすごく力を置いておられて、発信していきたいということを言っておられるんですけれども、今年として何か具体策みたいなのはありますか、大きな動きとか。こういうことをしていきたいみたいな形でもいいですが。

【市長】 今年は75周年なんですよね。杉原千畝のパスポートを持って渡ってきたのが75年目ということで大きな節目だというふうに捉えています。今わかっていることで言いますと、この間パスポートを寄附してくださったベラさんという方の娘さん、リンダさんというのがアメリカに住んでいらっしゃるんです、その方に一度敦賀に来ていただきたいなというふうに思っています。

もう一つは、大迫アルバムの中で7枚写真があったんですけれども、その1枚は今娘さんにお返ししているんですけれども、それもこの間返してもいいよという話が出たということですので、そのお名前を忘れちゃったけれども、その方の写真を持ってきてもらうという、その方もアメリカに住んでいらっしゃるんですけれども、ということをしたいなと思っています。

【記者】 対外的にそういう魅力をどうやって発信していったらいいかということについて、何か市長のお考えはないでしょうか。

【市長】 今、あらゆるチャンスでPRしていくのが大事だと思いますし、一つはそのことを敦賀市民が余り知らないということもありますし、ましてや福井県民の皆さんが余り知らないというのもあります。ですから足元を、市内、県内を固めていくというのもそうですし、また敦賀にゆかりのある人たちに情報発信をしていって広めていただくということも必要だと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 今の杉原千畝さんの関連で、たしか今年の春にユネスコの世界記憶遺産の本申請だったと思うんですが、八百津町さんがメインでされると思うんですが、そこに敦賀市がどうかかわっていくかというのを、今、具体的に決まっているものとか、もしくは今後かかわっていく予定だっておりますか。

【市長】 今のところはありませぬ。

【記者】 今のところはもうノータッチということですか。

【市長】 お伺いはしているんですけれども、向こうからね、こんなん手伝ってくれって言われれば喜んで行きます。

【記者】 八百津町さんとしては、余り敦賀市に入ってほしくない、自分たちのところだけでやりたいという思いなんですかね。

【市長】 いや、そこはわからないんですけれども、イスラエルに行ったりフランスに行ったり、町長さんね、杉原ビザを探して世界中回っていらっしゃるんです、その中で手伝って

れやと言われれば幾らでもお手伝いします。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして1月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後2時10分 終了